

組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名：

医学部医学科

部局長名：

大塚 愛二

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	
<p>・組織的恒常的FDとして、基礎系・社会医学系教育企画委員会及び臨床系教育企画委員会の毎月の定例開催を継続し、教育カリキュラムと教育方法・内容の改善を図る。</p> <p>・医療教育統合開発センター医学教育部門・岡山大学病院卒後研修センター合同会議を中心として、シームレスな卒前卒後の教育体制の整備を図る。</p> <p>・国際交流協定校との教育連携を充実させ、学生の受け入れなど共同教育を推進する。</p>	<p>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的恒常的FDとして、基礎系・社会医学系教育企画委員会と臨床系教育企画委員会の毎月の開催を行い、カリキュラム改善と教授方法の改善のための議論を行った。議論の内容は、基礎病態演習、基本臨床実習、ルーブリック評価、臨床実習の改善、OSCE(客観的臨床能力試験)の実施と改善など多岐にわたっている。学生からのアンケート評価による意見も検討対象にしながら授業改善を継続している。この委員会は、つねに教育現場を担当している教員が、実際の教育活動をどのように改善すべきかを恒常的に話し合う場として意義深い。この話し合いの中で出た意見は、実際の教育現場に還元されていくことで、即効性があり、いわゆる講演会スタイルなどのFDとは大きな差がある。委員の出席状況は、常に報告され、各委員の自覚を促している。また、H28年度より学生を交えたカリキュラム委員会もスタートし、その意見が実際のカリキュラムや授業改善に生かされるようなシステムを構築した。 ・6月28日～7月1日、日本医学教育評価機構の実施する分野別認証評価(国際認証評価)を受審した。12項目において「高く評価できる」と評価され、この結果は、他大学の場合の数項目と比べて非常にレベルの高い医学教育を行っていることが実証された。 ・医療教育統合開発センター医学教育部門・岡山大学病院卒後研修センター合同会議は、毎月開催され、卒前・卒後の教育方法と体制整備を行っている。本年度は、大学病院の卒後研修がフルマッチした。 ・協定校との学生交流は、派遣13名、受入れ21名であった。また、学生交流を含む協定締結は6か国8件であった。中でも、ミャンマーの学生8名を基礎病態演習で受入れ、EPOK学生3名を加え英語班を5班設定し日本人学生と共に課題の議論と発表が英語で行われ、双方に非常に好影響を得た。 ・ベストティーチャーを定め、当該学年が卒業するときに謝恩会で表彰式を行った。 ・基礎病態演習や地域体験実習などでWebClassやOffice365を用いて、学生間の情報共有と学生と指導教員とのリアルタイムの意見交換や指導を行っている。 <p>①-2 大学全体への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎病態演習において5班の英語班の設定については、英語で開講する授業に相当しており、SQUとしての取り組みに多大な貢献をしている。・授業科目「社会コミュニケーション」を新設し、医学科学生1年次生の必修とした。このことは、学生のコミュニケーション能力、社会における役割の意識付け、行動科学を体験で学ぶ授業科目として意義があり、大学全体で推進している実践教育の一翼を担うものである。・60分制の時間割が、医学科内に定着したことは、大学全体が60分制を推進していることを牽引していることになり、大学全体に貢献している。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>医師国家試験合格率について、全国平均を上回ること。</p>	<p>医師国家試験合格率を向上させるため、チュートリアル室使用によるグループ学習の奨励、模擬試験の受験とその結果に対する指導、個別学生指導等を行った。また、卒業試験のレベルを国家試験のレベルと同等以上になるように努め、また形式も工夫を凝らした。その結果、第111回医師国家試験合格率は、新卒で94.2%/91.8%(岡山大学/全国)、総数で93.0%/88.7%(岡山大学/全国)で、全国平均に対し新卒で2.4%、総数で4.3%上回った。</p>
②研究領域	
②-1 目標	
<p>・医学科の研究領域については、17-1「医歯薬学総合研究科 医学系」にまとめて記した。</p>	<p>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p>
②-2 大学全体への貢献	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	
<p>地域医療体験実習を通じて、地域医療機関との医学教育協働を推進することにより、将来の地域医療に貢献する人材育成を図る。</p> <p>高校の要請に応じ高大連携プログラムを実施し、高校のキャリア教育に貢献する。</p>	<p>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療体験実習を通じて、学生は地域で医療がどのようになされているのかを知るとともに、地域からの期待と将来の医療人としてのモチベーションを高めることができ有意義であった。また2月に行われた地域医療シンポジウムでは、学生と地域の医療機関、また岡山県保健福祉部の参加を得て、互いの連携をさらに深めることができた。 ・高大連携プログラムは、8件実施された。高校生のキャリア教育に資することができた。当該高校の卒業生の教員がその高校を訪問したり、高校生の受入れ指導を行ったりして、交流を深め、またキャリアパスを思い描きロールモデルとなるような形態をとっている。 ・ミャンマー医療協力については、JICAと六大学コンソーシアムの枠組みを通じて、博士課程の学生を受け入れ、また、医療スタッフ教育のため、医師・医療スタッフの短期研修を受け入れた。また、岡山大学病院の医療チームがミャンマーに赴き、医療活動を現地に行い、現地での指導を行った。 ・岡山大学病院が医療法上の臨床研究中核病院となった。 <p>③-2 大学全体への貢献</p> <p>岡山地域と国際社会への交流と連携を岡山大学として深めることができ、今後の学部形成に貢献した。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
	<p>地域医療人材育成を通じて、岡山県や地域の医療機関と連携している。協定に基づく外国人学生の受入れや、ハンガリーからの医学生の受託研修生受入れを実施した。</p>
【総括記述欄】	
<p>教育活動領域、社会貢献活動領域ともに非常に良好に達成できていると考える。教育面では、今年度は、医学科は国際認証評価も受審し、評価委員から高い評価を受けることができた。その中での指摘事項も種々あり、それらの解決に向けてさらに改善を進める予定である。国家試験の合格率は例年より大きな変化がないように見えるが、既卒者に対するケアの結果、1浪の既卒者は全員合格した。一方で新卒の中で不合格者が出ており、今後の指導と対策が必要と考えられる。社会貢献の面では、地域医療人材の育成について、地域出身学生の第1期生が研修を終えて、地域の病院に赴任することになった。このことは、岡山大学が、地域において次代のリーダーたる医療人を育成するという目標に合致するものである。国際貢献においては、ミャンマー医療支援をはじめ、順調に成果を挙げている。国際交流をさらに活発化させるには、資金面と宿舍の確保が喫緊の課題である。岡山大学病院が医療法上の臨床研究中核病院となったことで、さらに医療分野での研究活動が推進されることになる。</p>	